

若き津波防災大使ノート

「世界津波の日」2017高校生島サミットin沖縄

宣言文

国連総会において「世界津波の日」が制定されたことに伴い、昨年、「世界津波の日」高校生サミットが高知県黒潮町で開催され「黒潮宣言」が発表されました。そして本年、私たちは、“万国津梁の島”沖縄に集い、「世界津波の日」2017高校生島サミットin沖縄が開催されました。

年々、地球規模の自然災害の脅威が高まる中、大地震を含む津波被害に遭遇した多くの人々が悲しい体験をし、苦しみなながらも復興に立ち向かっています。

私たちは昨年の「黒潮宣言」を受け、この宣言をベースに自国地域で実践するための行動計画を本日策定しました。それが「若き津波防災大使ノート」です。これは、私たちの大切な人、そして地域の人々の命を守りたい、その一心から生まれました。津波の脅威を知り、備え、いま自分たちが出来ることを実践していきます。

災害リスクに備えるため、私たちは何をすべきか、このサミットを通じて学び合い、共有することができました。この共有物である「若き津波防災大使ノート」を自国に持ち帰り、自分事として捉え、地域の人々と共に行動計画を実践していくことをここに宣言します。

知る

グループ A: 過去からの学びが私たちの未来を守る

グループ B: まずは、自分の命から

備える

グループ C: 一に知識、二に行動！

グループ D: 防災の意識は若い世代の手の中に

グループ E: 意識と備えが私たちの成功と幸せの鍵を握る

グループ F: 鍛えた健康な体があれば、いつでも準備万端

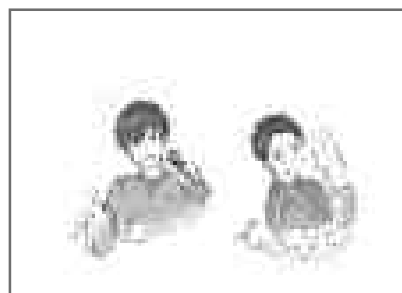
行動する

グループ G: 自然を守ることは、自分たちを守ること

グループ H: 行動するなら、今！後悔先に立たず。

分科会グループ A

過去からの学びが私たちの未来を守る

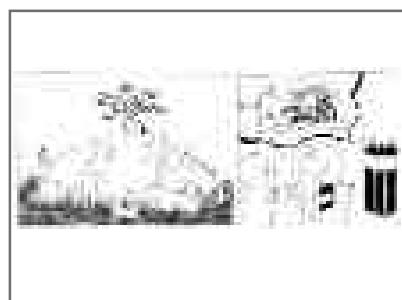


岩手県立釜石高等学校

「釜石の独自性を普遍的なものとして広げる」
 私たちは、プレゼンテーションやチラシを通して、東日本大震災からの教訓と経験を共有する。

[プレゼンテーションとチラシの内容]

1. どのように私たちは東日本大震災と津波から生き残ったか。
2. 災害から生活を回復させるために必要なこと。



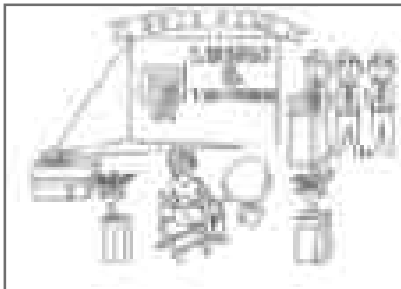
宮城県立多賀城高等学校

まず、看板を設置するために、私たちは、近隣の住民や企業にインタビューをするだろう。複数のリソースを持つことで、私たちは、より多くの看板を正確に設置できるだろう。第二に、街歩きをもっと効果的にするために、私たちは、文化的・歴史的遺跡を紹介し、アンケートを配布することも計画している。歌や歌碑も使用できる。



埼玉県立不動岡高等学校

地域住民の防災意識と、一人一人の心構えを高める活動が必要である。例えば、避難ゾーンはすでに頭に入っている状態を作る活動など。防災意識を高める方法の一つは、ソーシャルメディア、YouTubeなどを使いながら情報を伝達し、広めることである。多くの人がインターネットを使うことによって、素早く情報を知ることができる。



佐賀県立佐賀農業高等学校

自然災害が発生した場合には、市長を訪問し、「リエゾンとTEC-FORCE」のプレゼンテーションを行う。私たちは学校の発表会に自治体職員や市民を招待し、「リエゾンとTEC-FORCE」より防災の重要性を伝える。



沖縄県立球陽高等学校

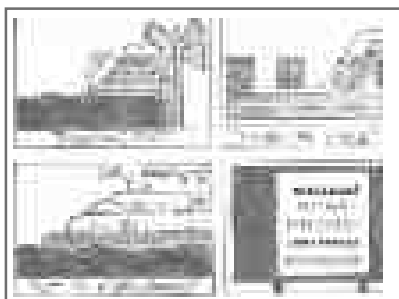
球陽高等学校の新生入生に対して防災意識調査を行った。地震や津波が発生した時にどのような行動を取るかを選択した。ポスターを作り、学校で展示する。



沖縄県立宮古高等学校

住民に津波の対処方法を教育するために、津波の危険性に関する情報と津波の対処法方に関する情報を掲載したチラシを作成する。津波の危険性を示すために発生した災害の写真を載せ、防災用品の準備するよう警告するとともに、その内容が人々に避難場所について話し合う機会を与える。チラシと写真を店舗、教育機関、ホテル、市役所に置き、チラシは英語、日本語、韓国語、中国語(簡体字・繁体字)に訳す。

分科会グループ A



Niue High School

過去の経験に基づいて、将来の世代にとってより安全な環境を開発する。ニウエの学生に津波についての教育を施すことで意識を高め、環境・社会・経済への影響を最小限に抑える方法を理解する。島にとっての津波に対する理解を深める。ニウエの国家災害評議会と協力して、国際防災日(10月13日)に災害リスク軽減のための予行演習を行い、そこには日本のサミットで学んだ教訓を反映させる。



Mindszenty High School

台風がパラオにもたらす脅威に対する意識を高める。政府に請願して、台風を意識する日を設け、人々と国家を招待し、参加してもらうことで台風とその影響についてより知識を深めてもらう。学校規模の訓練に参加することを各学校に奨励する。蒸留や逆浸透などを通して海水から真水を得る方法を学ぶプログラムを導入し研修を実施する。地域社会の担当者に緊急時に備えた特別訓練を実施するプログラムを導入する。

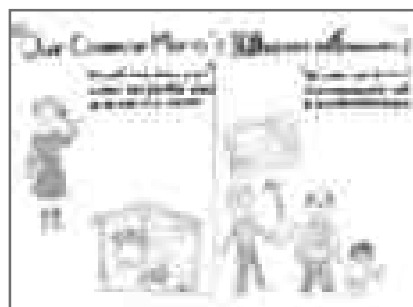


Laupahoehoe Community Public Charter School

今日の世界の津波状況に対する意識を広げるため、デジタルメディアを通して意思疎通を図るべきだという結論に至った。学校、コミュニティー、(そして潜在的には国家レベルまで)浸透するデジタルコンテンツをビデオや写真などの形式で作成する。そうすることで、私たちは聴覚や視覚に障害がある人々や異なる言語を話す外国人などを含めたより広い聴衆に伝達できる。

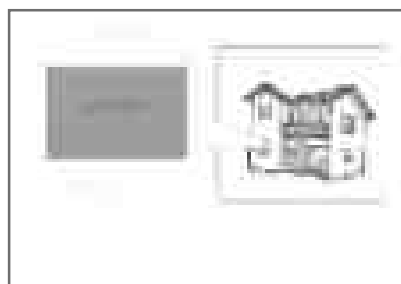
分科会グループ B

まずは、自分の命から



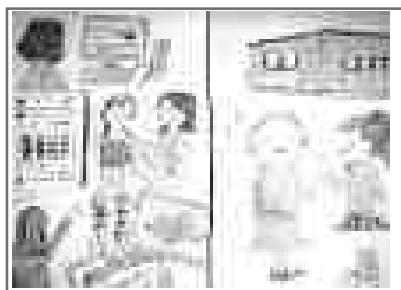
北海道浦河高等学校

幼稚園や保育園に行き、災害時に子どもたちが取るべき行動を教えます。名前、住所、電話番号に加えて、避難経路を示した防災カードを作成し、配布します。



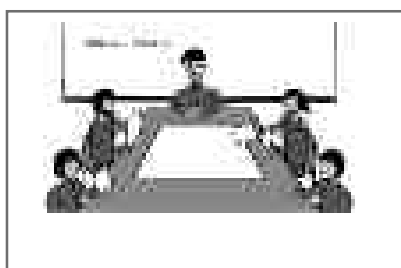
宮城県仙台第一高等学校

すでに避難していることを示す目印として、見つけやすい場所にカードを設置することを提案する。その目的は、家が避難済みなのか、人がまだ居るのかを示すことと、救助者が何らかの理由で家に残っている人を見つけて救助するまでの時間を短縮するためである。



大阪府立泉北高等学校

東日本大震災のホームページを立ち上げ、そこで定期的に現在の状況について掲載、更新していく。例えば、被災地における新スポットを推奨したり、四季折々の美味しい地元の食べ物を紹介する。東北における観光業を活性化する。また人々にあの時の災害を思い出させ、生活再建のためにあらゆる努力をしている人たちのことを知らせる。そうすることで、人々は次々と寄付をしてくれるかもしれない。さらに、サイトを定期的に更新することによって、私たちは、人々が東北地方への関心を失うことを防ぐことができる。



大分県立大分上野丘高等学校

私たちの学校の防災委員会活動計画

- その1: 口承伝承についてのポスターを作成し、被災を防ぐ。
(学校だけでなく、地域の地域でも)
- その2: 消防訓練では、学生や地元の人々にクイズなどを使って口承伝承について知らせる。
- その3: 授業で、または地方の小・中学校で災害予防講座を開催する。
- その4: 被災地を訪問し、状況を知り、そこで学んだ教訓を伝える。



沖縄県立向陽高等学校

ハザードマップを作成し、観客に提示する。このようにして防災意識を高め、より効果的に訓練を実施したいと考える

分科会グループ B



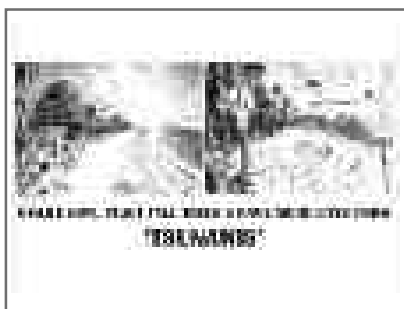
沖縄県立陽明高等学校

7:2:1。浦添市は、各小学校で災害用品を保管しているが、その量は同市の人口わずか5%が三日間生きる分しかない。沖縄は島であることから救援に時間がかかるため、各家庭で緊急用の備品を七日間分保管する必要があると言われている。自己援助:協力:公的支援の割合は7:2:1である。この比率は、災害が発生した後どのような行動する必要があるかを示している。私たちのチームは、災害時の自助活動の重要性を身近な人々に伝えたいと考えている。



Assumption School

各校においてセミナーを開催し、そこで前回のアンケートと同じ内容で事後アンケートを実施しその後の経過を把握する。アンケートの結果は集計後、比較分析をする。セミナー開催時にはシンプルなイラストで描かれたパンフレットをポスター掲示と合わせて配布する。セミナーに関わった高校生たちはそれぞれが作成する美術作品(歌、絵画、詩、ショート・ビデオ動画など)を通して知識を伝えてゆく。



SOGERI NATIONAL HIGH SCHOOL

沿岸地域の村落は、根を深く張る背の高い木や、ココナツの木を海岸に植えることで津波発生時には若者や子ども達はその木々に登り、安全を確保できる。海に流されてしまった場合は再度植樹を行う。

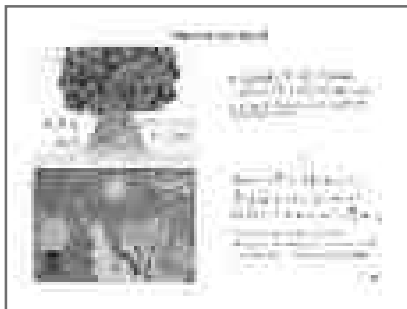


Liceo Pablo Neruda

津波を世界レベルおよび国家レベルで調査・分析する計画を立て、行動計画とその達成度も合わせて調査・分析する。人々を危険から守るための避難計画に関する情報をマルチメディア、パンフレット、個別指導等を通して提供する。

分科会グループ C

一に知識、二に行動！



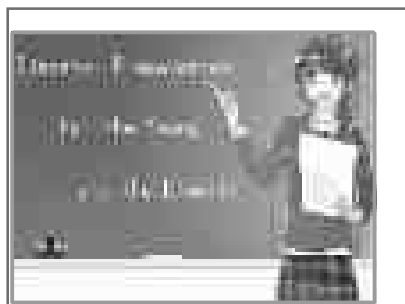
東洋大学附属牛久高等学校

私たちは、小学生、中学生、高校生らを対象に3月11日の東日本大震災及び防災に関するアンケートを実施するだろう。それらについて考えない学生を教育し、互いに防災について議論させる。さらに自分たちで地震に関するポスターを作り、学校に掲示させる。



横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

第一に、余震や津波の危険を多くの人に知らせるべきである。今後の地震の被災者を減らすためには、東北地震や熊本地震の余震・津波から被害の危険性を知ることが重要である。次に重要なのは避難場所である。世界中から悲しい犠牲者をなくすため、完全に安全な避難場所に条件を正確かつ完全に知らしめるべきである。



学校法人愛知真和学園 大成高等学校

学園祭で大成の学生たちに、愛西市は海岸から遠く離れているが、津波による高い洪水の危険性があるため、津波の危険性を念頭におく必要があることを伝える。また、愛西市は、愛知県で7番目に高齢者が多く、災害時の避難支援が必要な人が多い。最後に、防災指導者養成セミナーや災害援助機関主催の災害訓練に参加するよう学生にアピールする。



大分県立佐伯鶴城高等学校

主要道路に線を引いて、海からの高さを示す。すべての道路に海からの高さを示す色があれば、どの道が高い所にあるかを見ることができ、子供も外国人も瞬時に逃げることができるだろう。例えば、海から1～5mの道路は赤い線、5～10mはオレンジ、10～15mは黄、15～20mは黄緑、緑は20m以上。



MAPS College (MAPS International High School)

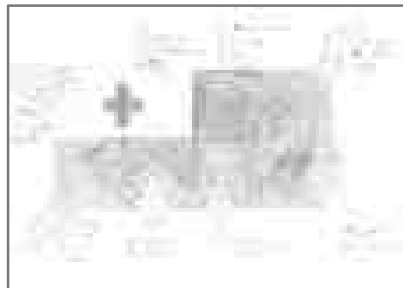
- ・ 避難マップ: 地元メディア、ソーシャルメディア
- ・ アウトリーチ教育資料: ビルボード、路傍、教育看板、地元メディア、ソーシャルメディア
- ・ 4ヶ月ごとのアウトリーチ活動: 災害危険地域に出入りする人々を対象としたドア・ツー・ドア安全キャンペーンおよび地元の商店と提携して、店舗内に緊急キット表示コーナーを設定する。

分科会グループC



HONIARA SENIOR HIGH SCHOOL

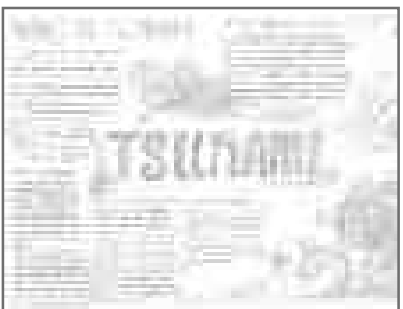
1. 災害リスク及び管理プログラムを学校カリキュラム内で実施する。
2. 各学校に防災意識啓発、演習、訓練を行うための災害管理委員会を設立する。
3. 津波危険地域に住む子供や地域社会に教育を行い、危険エリアを示すハザードマップを作成し、安全な避難ルートと安全ゾーンを示す標識やポスターを作成する。
4. 地方の災害危険地域の小中学校および地域社会の両方で災害リスク軽減(DRR)プログラムを実施するため、災害救助庁(NDC)の災害救助隊と協力して取り組む。



Tonga High School

私たちは、トンガでの自然災害防止の重要性に対する意識をより高めるために大いに努力をする。そのために以下のことから実施する。

- 1) 津波情報やその他の自然災害の事実に関するポスターを掲示する。
- 2) 避難訓練(地震、サイクロン、津波など)を定期的に調整し、実施する。
- 3) 2400人以上の学生と200人の講師が避難経路を確認するために、近隣の学校(高校1校、小学校3校)とパートナーシップを形成する。これらのパートナーシップには、定期的な会議、訓練、管理者、教師、学生とのアイデアの交換が含まれる。

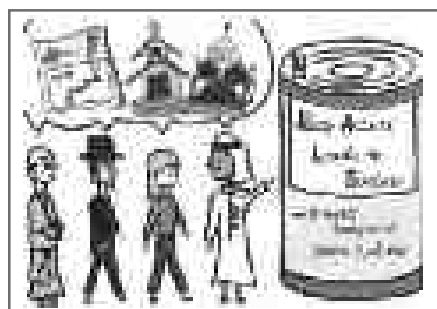


Hainan Middle School

1. ここから始める: 校内全てのクラスで参考資料を共有し、1年生と2年生の全クラスに手描きのイラストコンテストに参加するように促す。
2. 知識を広めるI: 学校で防災に関する知識のコンテストを開催する。
3. 知識を広げるII: 2番と3番の活動に参加した生徒を招待し、一緒に掲示板を準備する。その後、地元の小中学校に掲示板を持って行き、生徒に掲示板の内容を説明し、地元の学生と参考資料や関連資料(小学生のための簡易版と中が宇生のための通常版)を共有する。

分科会グループ D

防災の意識は若い世代の手の中に



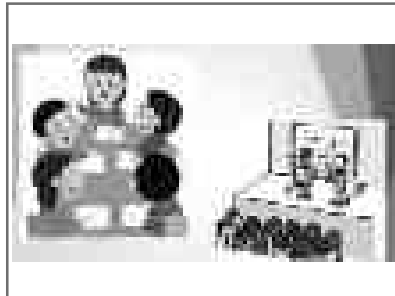
東京学芸大学附属国際中等教育学校

非常食は、一般に利用される地域密着型の施設で、供給されるだろう。これらは、私たちの日常生活で利用され得る乾燥食や缶詰の日本食を含む。多文化の食べ物も入手可能にし、パッケージには非常食と分かるシンボルを付ける。私たちの目標は、自然災害発生時にすべての外国人にとって「容易にアクセスできることが、成功へ導く」ということである。



関西創価高等学校

私たちは、自分たちの学校で、災害予防の意識を向上させるために、キャラクターを創作する。その名前は「ナマズン」(ナマズは英語でcatfish)。私たちは、防災に対する意識を高めるために、私たちの行うすべての活動において学生と先生に印象づけるためにキャラクターを使う。



明治学園中学高等学校

防災意識を高めるために、多くの方々と防災問題を話し合う計画を立てている。来年春にシンポジウムを開催し、科学者の活断層に関する講義を聞く予定である。災害管理のために働く行政官や地震を経験した人々を招いて議論に出席する予定である。



沖縄県立八重山高等学校

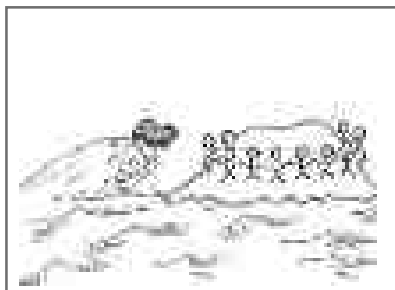
ポスターを作り、展示する。災害状況を英語または中国語で様々な公共の場所に掲示する。津波避難訓練を定期的に行う。



MOTUFOUA SECONDARY SCHOOL & FETUVALU SECONDARY SCHOOL

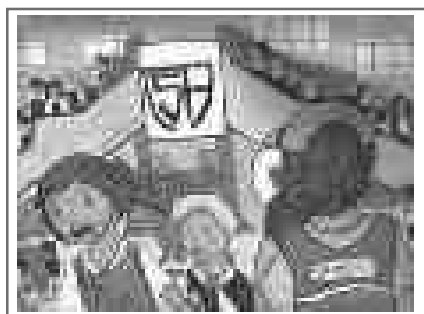
- ・ 日本から帰国後、サミットに参加した6人の学生と教師による週に1回の津波への意識を高めるワークショップを、まず自分たちの学校から開催する。
- ・ サミット参加者が、1週間に一つの地元の学校を訪問して、津波に対する児童・学生の理解を促すためのプレゼンテーションを行う。
- ・ サミット参加者とその他の有志により、津波意識を地域の防災課に伝え、意識を高め、全国的にコンセプトを推進する支援を求める。
- ・ サミット参加者は、地方災害隊員と協力し合って2018年の初めに全国津波対策委員会の設立を支援する。

分科会グループ D



**PRASLIN SECONDARY
BELONIE SECONDARY
MONT FLEURI SECONDARY
PLAISANCE SECONDARY
POINTE LARUE SECONDARY
ENGLISH RIVER SECONDARY**

- ・ 学校や関連団体を巻き込んだ国家規模の津波キャンペーンを実施—備える、兆候を見極める、避難する。
- ・ 緊急時対応要員として教師や学生に研修を行う。(2018年度も継続。ただし開始は同年4月)
- ・ 津波災害防止及び管理(TSUNAMI READY)を学ぶための資料を作成する。
例:ポスター、パンフレット、冊子
- ・ 学校レベルでの避難訓練及び国家規模による趣味レーション演習
- ・ 全国規模のメディアを通してのプロモーションキャンペーンの実施。
例:テレビ、ラジオ、新聞、ソーシャルメディア



Colegio San Antonio IHM

私たちは中庭の安全な場所に着いて、弟や妹と一緒に移動して建物の最高部へ移動するまでに要する時間を考慮した避難訓練に頻繁に参加している。避難中に他の人を助けるために、学生と教師はグループを編成する。これらの行動を実行することにより、自然災害に直面した時にどのように対処すれば良いのか、自信が持てるようになる。

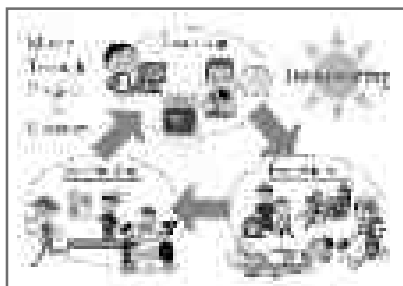
分科会グループ E

意識と備えが私たちの成功と幸せの鍵を握る



富士見丘高等学校

私たちは、自分のオリジナル・ストーリーを書き留めることで、いつかやがて東京を襲うだろう地震のイメージを創造するだろう。そのストーリーは、私たち、私たちの家族、私たちの周りの人々に、地震や津波について真剣になる必要があることを学ばせ、理解させるだろう。私たちの親は、父兄会で、私たちのストーリーに耳を傾ける機会を持つだろう。私たちは、彼らにコメントをくださいと依頼するだろう。これらのコメントは、私たちのストーリーをより良いものにする。同時に、私たちは彼らに、その災害に備えるための私たち自身のガイドブックを提供するだろう。このガイドブックには、緊急避難バッグに何をを入れるべきかが紹介されている。



関西学院千里国際高等部

災害に向けたムービー・トライアングル・プロジェクト

「学習」

1. 動画から学習する。
2. 自分自身でリサーチする。EDSG(避難訓練シミュレーションゲーム)を利用する。

「体験」

1. 災害予防のワークショップに参加する。
2. 消防署が実施する火災訓練に参加する。
3. ライフセーバーと一緒に着衣水泳訓練をする。

「普及活動」

1. 学習と体験で学んだことに基づいて、動画を作成する。

「動画」

1. 「津波」というテーマで動画を制作する。
2. 優勝した動画は、支援を得て、公共に発表される！！



高知県立須崎高等学校

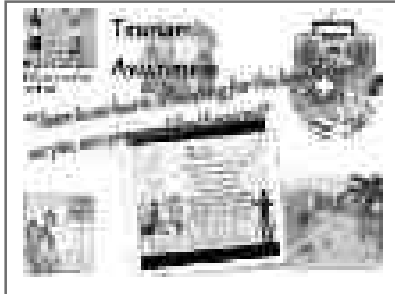
市民全体の住民意識を高め、津波訓練への住民参加率を高める方法について考えると共に、より実践的な訓練を行い、市長または防災組織の指導者に提案する方法を考える。



高知県立嶺北高等学校

衛生的に食べることができて、非常食としてふさわしい食品構造を提供する。私たちは、ジャガイモ栽培アクションプランを通して、ジャガイモを学校と近隣で栽培するだろう。自分たちで調理し、レシピを開発し、自分たちの周りの人々とながりにながら、独自の商品を作るだろう。私たちは、被災地に、「嶺北高等」という名前の私たちの商品を提供するために必要な手段を考察したい。

分科会グループ E



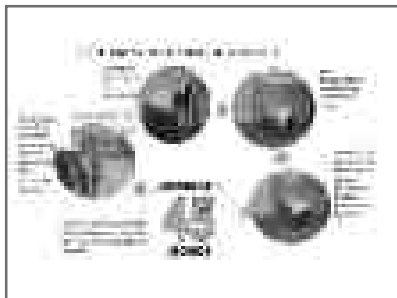
Ministry of Education School Nukutere College Mangaia School Araura College Titikaveka College Enuamanu School

コミュニティ意識向上プログラム(保護者向け)

津波の脅威に関する保護者向けの意識向上プログラム。「家族のための津波サバイバルキット」を制作する。これは、二つの学校の学生に配布される。

津波サバイバルキットに記載される情報

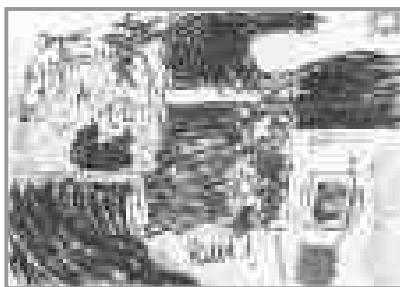
1. 保護者の情報
2. 学校情報:
3. EMCI-クック諸島の緊急情報:



Central School

津波避難ゾーンから生き残る・避難する方法に関するポスターをデザインして表示することで、津波の意識を発信する。

学校の休暇から戻った後、経験(プレゼンテーションも同様)とポスターのアイデアを学校に報告する。(学校会長、学校災害委員会を含む教員)サミットでのプレゼンから得た情報を教員と学生が参加する学校議会へ口頭発表する。また、この時期にポスターを発表する。



SMAN 6 BANDA ACEH

各校で定例交流会やディスカッションを運営する。津波経験者である学生はすでに津波がどんなものか、そしてどう対応すれば良いかを理解していると考えられる。反対に復興後に生まれた主に中学生と小学生はこの問題について何も知らない可能性がある。定例交流会やディスカッションはこのような学生を対象とする。そして、そこを媒体として、知識、経験、そして技術養成のための研修を拡散してゆく。津波の発生、発生前の兆候、避難ルート、避難所となる建物に関する動画をチームで計画する。

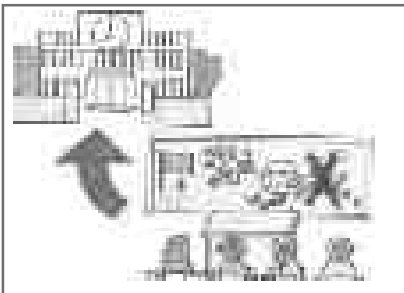


Streeranong School
Sikaoprachaphadungwit School
Lantarachprachautit School
Thaimuangwittaya school
La-ngupittayakhom school
Phuketwittayalai school

1. 津波リスクの理解度及び地域社会の人々の意識を把握するための調査とインタビューを実施する。
2. 過去と現在の津波に関連した活動、出来事、地域内の動きを調査し、情報を収集する。
3. グループメンバー間のデータと問題に関する議論
4. より良い解決法のための討議と取り組み

分科会グループ F

鍛えた健康な体があれば、いつでも準備万端



静岡県立池新田高等学校

私たちは、小学校または中学校へ行き、生徒に津波がきた時何をすべきかを教える。例えば、私たちは、彼らにハザードマップの読み方や、どこに行くべきで、どこに行きべきではないかを教えることができる。別の例としては、私たちは、彼らに津波からの避難の仕方を教えることができる。さらに、私たちは「オレンジの旗」が何であるかを教えることができる。



神戸大学附属中等教育学校

一つの提案は、このゲームを基にしたポスターを作成することである。これには二つの主な理由がある。一つは、上記の問題を改善し、災害時にとるべきアクションについてより容易に学ぶことができるようになる。もう一つは、そのコンテンツは実用的で、私たち高校生によってスムーズにできるからである。具体的には、災害時に家庭での考えられる状況のカードを選択するか追加し、トイレの壁のような馴染み深い場所に貼るポスターを作成することがアクションプランである。



**和歌山県立串本古座高等学校
和歌山県立耐久高等学校
和歌山県立日高高等学校**

私たちのアクションプランの主要トピックは、各学校の特徴に適した実際的な防災訓練であり、HUG(避難所運営シミュレーションゲーム)の後に実施される。参加者は、HUGゲームを通して習得した経験を活かせる。例えば、地域住民との追加防災訓練、HUGゲーム後の討論をベースに作成したリーフレットの配布、ポータブルトイレの制作など。



King George V & Elaine Bernacchi School

津波に関連するマングローブ、沿岸地域に生息する木、サンゴ礁の重要性と役割について一般市民の意識を高める。学校のカリキュラムに津波に関連する内容を導入する。沿岸地域の近くにマングローブや大きな木を植え、育てることを地域に促す。



LEULUMOEGA FOU COLLEGE

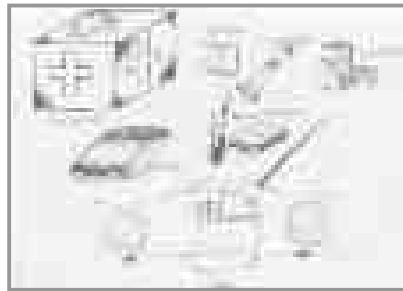
標高の高い位置に移動するために道路を使い、人々にどこに行くべきか標識などで知らせ、安全のためによく走れるように体を鍛え、自分自身をコントロールできるように高い自尊心を持つ。

分科会グループ F



RATU KADAVULEVU SCHOOL

すべての村で、沿岸波浪の脅威に対する意識向上プログラムを行う。関係地域社会向けに避難計画を策定するために、私たちの学校長、村長、年長者と調整して災害意識管理委員会を構成する。

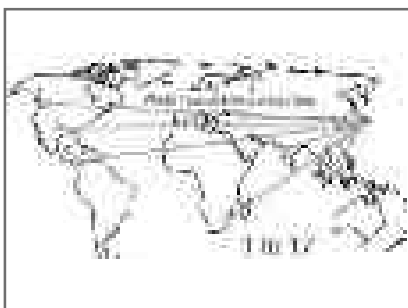


Pohnpei Island Central School

地域社会の意識向上プログラムを立ち上げ、災害発生時に備える。地域社会に向いて防災の重要性を提示できるクラブやグループを設立する。どのように各個人また全員で災害に備えるべきかを示す看板、ポスター、広告を地域社会のいたるところに掲示する。学校に向いて、子供たちに警報が鳴った時何をすべきかを教える。地域社会に防災について伝達する他の手段として、歌やスキットを作成する。

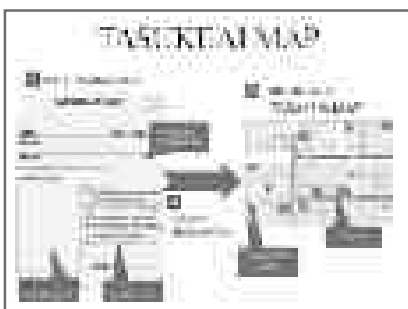
分科会グループ G

自然を守ることは、自分たちを守ること



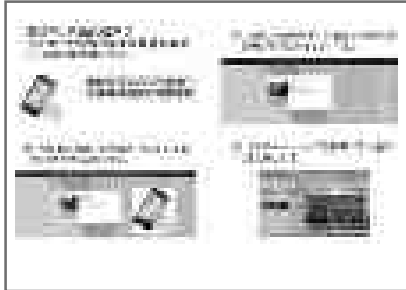
UWC ISAK Japan

私達は世界津波の日を推進し、世界中の人々へ意識を広めることが不可欠であると考えている。まず初めに、50カ国以上からの172人の生徒で構成されている当校でワークショップを開催する。演劇、朗読、コメディ、プレゼンテーションなど様々な方法で広報する手段を検討し、観客がより教育され、理解が深まることを期待する。当校は世界中に17カ所の大学を持つユナイテッドワールドカレッジの一員であるため、世界中の学校と協力してイベントを広報することを計画する。



大阪教育大学附属高等学校平野校舎

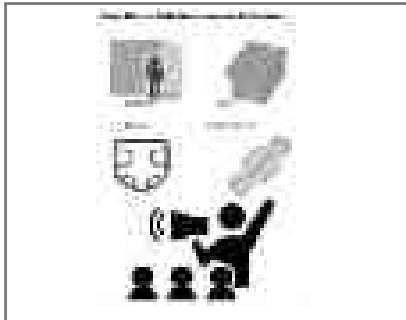
高齢者を支援する若者を支援するためのシステム、「助け合いマップ」を導入する。助け合いマップを利用することで、市民は支援が必要となる対象を知ることができ、地域社会の結束が弱くなっても、効率的かつ迅速に支援する方法を判断できる。適切に使用し使い方を忘れないために、リーダーは毎年そのマップの情報が正確かをチェックし、使い方を伝えるようにする。



静岡県立裾野高等学校

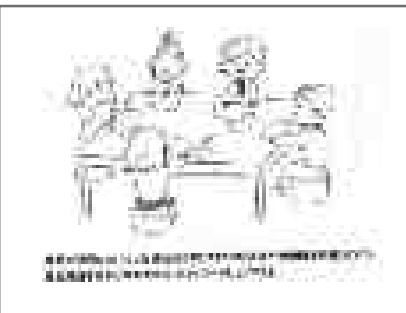
アプリケーションを使い易く改善する。

- ①ウェブサイトを使い易くする。活動を掲載する時、その地図に目印を付ける。
- ②被災地の変化やポスターの間違いを修正する際、ウェブサイト上で編集コンテンツを変更する。
- ③ストリートビューモードで見た時、自動的にピンが現れるようにする。



高知県立高知追手前高等学校

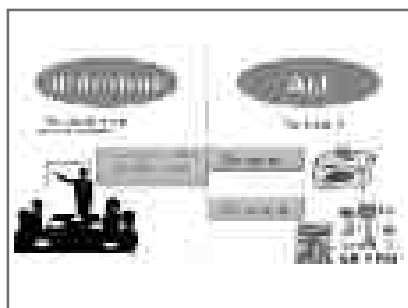
私たちの目標は、各避難者にとって避難所ホームを作ることである。実現のためにはプライバシーの保護と人々に衛生的な製品を供給することが必要不可欠である。ダンボールで仕切りとトイレを作り管理する。また、人々に配布するための衛生的な製品を作る。このアクションを効果的にするために、避難者に作り方を提示する。



高知県立高知西高等学校

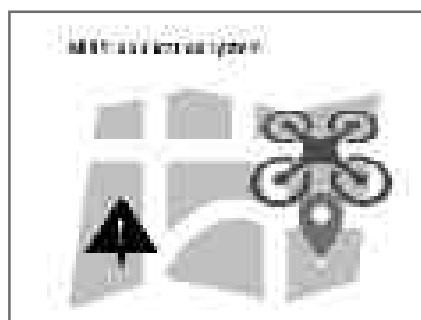
住民の福祉を確保し、自治の意識を向上させる最良の解決策を求めて、地域社会の人々との実地経験を重視する。私たちにできるアクションは、「緊急事態に何をすべきか」の実現可能なリストを作成するために、地域社会のメンバーと共に数回のワークショップを開催する。

分科会グループ G



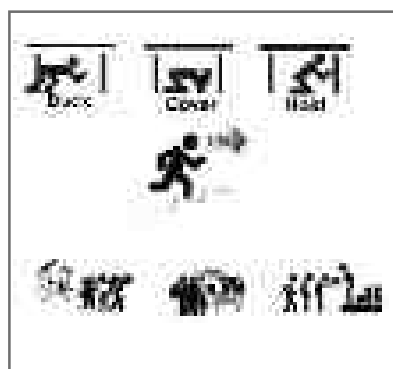
福岡県立鞍手高等学校

「学校評議会によって開催されるミーティング」を提案する。ミーティングを年に2回開催し、すべての学生が同じテーマについて一緒に議論する。そのような機会を作ることは大変重要であり、ミーティングを通して問題を深く理解できる。寄付を集める活動を運営するし、被災地での買い物や観光による寄付金を地域改善に役立て、被災者を経済的に支援する。学校で寄付集めを促進する。ボランティア活動に参加し、食事を準備し、その地域を巡回して多くの被災者を支援する。



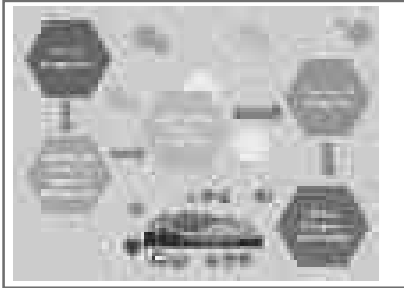
沖縄県立美来工科高等学校

「避難通知／避難ルート問い合わせアプリシステム」と「ガイドナースドローン」の開発を提案する。地図情報とも連携し、GPSナビゲーションシステムがアプリで提供される。電柱ともつながっており、地震の際、電柱の被害状況に応じて、人々を誘導する。ドローンはアプリにもつながっている。



Le Lycee Abdoulhamid de Moroni

津波のシミュレーション訓練のため、COSEP／気象庁を我が校に招く。学校のすべての先生にはこの訓練について知らされるが、学生には知らせない。その目的は、学生たちをこの万一の場合に心理的に備えさせることである。従って、警報として特別なベルの呼び出し音があり、皆は地震が起きたかのように自分たちの役割を果たさなければならない。また、「環境」を中学1年生から高校生の最後まで教えられる新たな科目にすべきであると考えている。

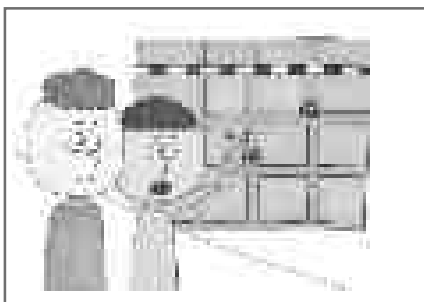


**Southlands College,
Richmond College,
Mahinda College,
Sangamitta College**

マングローブの種を持ち込み、ある程度育つまで人工的な苗床を作る。ガル地区のギントータ橋沿いの海岸線50mの地域を選び、伝統的な漁村の漁師である専門家の助けを借りてマングローブを植える。プランテーションが完成後、村人と話をして、このプロジェクトの重要性を教え、マングローブの柔らかい植物を維持するよう依頼する。村人の同意を得て私たちはその手順に従う。

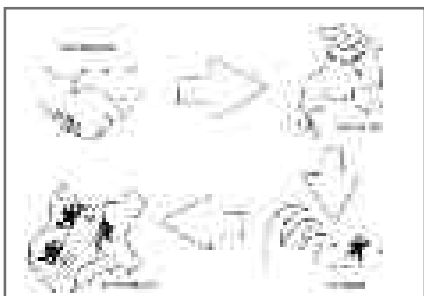
分科会グループH

行動するなら、今！後悔先に立たず。



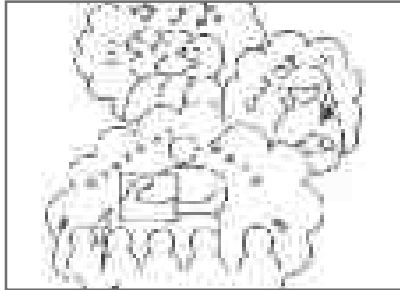
兵庫県立尼崎小田高等学校

自然災害が起きた時、外国人にとって災害に関する情報を収集することは日本人より困難である。私達は尼崎に住む外国人向けに詳細な防災地図を作成する。この地図は、危険情報が欠落している近隣地域に焦点を当てる。そのマップはひらがなやカタカナといった平易な日本語で作成し、英語を母国語としない人々にとって理解しやすいものにする。



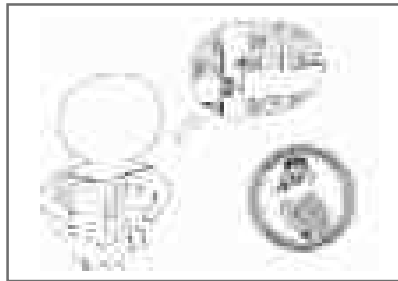
奈良県立畝傍高等学校

私たちは、奈良県が給水や下水道システムのようなインフラを確立するように提案したい。それらは、災害の場合、支援ベースや仮設住宅をスムーズに管理するために不可欠なものである。奈良県が災害予防計画において避難者に仕事を提供するように提案する。



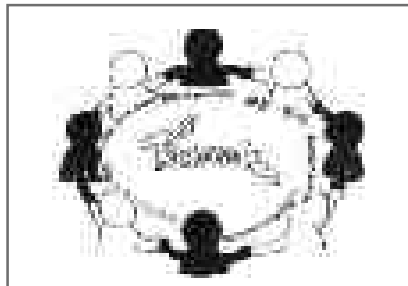
岡山県立玉島高等学校

海外から人々を招待して、自然災害に関するワークショップを開催する。私たちが彼らに知識を押しつけているように感じさせないように、歌を歌ったり、日本料理を作ったり、日本文化を体験したりなど楽しめる活動の一部として災害に関するワークショップを開催する。招待者は災害に関する正しい知識を習得でき、災害が起きた場合に何をすべきかを学ぶことができる。



高知県立中村高等学校

地域の一員として自衛の意識を高めるために全力を尽くす。四万十市防災課と地域の方々の協力を得て、学校を避難所として利用するためのマニュアルを作成する。



学校法人土佐塾学園 土佐塾高等学校

非常食供給の取扱説明書を英語で作成し、外国人が使い方を理解しやすいようにする。また、使い方を説明する簡単な動画を作成する。その説明がどのような緊急事態でも使えるように各先生のタブレットにもインストールする。これらの予防策を行うことで、災害に対して備える。



沖縄県立那覇国際高等学校

地方政府は、情報が正確で信頼できるものかどうかを判断し、正確であると判断された場合、災害に遭遇した外国人のためにSNSアカウントに複数言語で投稿する。地元の高校では、近くの町や都市の人々に警告するためにその情報を広めることができる。

分科会グループH



NAURU SECONDARY SCHOOL

学生や地域社会にコードシステムを説明し津波意識を高めるための教育的プレゼンを行う。パンフレット、ポスター、テレビやラジオでの短いメッセージを通して、津波の原因を一般に知らせる。政府の優先となるために、避難標示／防波堤の建設のために援助を求める。津波警報の際、パニックに陥らずに用心するため、責任を持って人々を教育する。少なくとも年に1回学校や地域社会で津波避難訓練を行うために、ナウル緊急サービス(NES)と連携し、自然災害としての津波に関する情報をもっと提供する。異なる地区で避難の指定地域を提供するために援助を求め、人々に知らせる。



Queen Elizabeth College College du Saint Esprit Royal College Curepipe GMD Atchia State College Notre Dame College Royal College Port Louis

モーリシャス教育省を通じ、全国災害リスク削減管理協議会に、すべての中学生がコミュニケーションできるようにFacebookアカウントの作成を提案する(第1段階)。第2段階では高等教育、第3段階では初等教育の生徒に広め、災害リスク削減に関する問題について話し合う。